大会参加レポート
MTB-O 世界選手権
2005 年 9 月 5-11 日

MTB-O スロバキア

樋口一志

ラスポに向かって会場近くの深さ30㎝以上ある川を渡る樋口。
迷わずバイクから飛び降りて担いで走ったが、乗ったままつっこんだ選手もけっこういた。
上手な選手はそのまま渡りきっていたが、川の中で転倒したり、川から上がる土手が
登り切れなかったりと、観客は大喜び。MTB-O のコースではホント、なんでもあり。

愛知の余韻もさめやらぬ 9 月上旬。MTB-O 世界選手権の舞台はスロバキアの険しい山岳地帯。中堅国がレベルを上げてきていた。

MTB-O 世界選手権大会 2005
2005 年 9 月 5 日-11 日 **スロバキア**

MTB-O はスロバキアで世界戦

今回で第 3 回となるマウンテンバイクオリエンテーリングの世界選手権はスロバキア中部の中心都市 Banska Bystrica で 9 月 5-11 日の日程で開かれました。日本からは男子のみ 6 名で参加しました。内 5 名は 2004 年のオーストラリア世界選手権のメンバーで、前回とほぼ同じ顔ぶれで世界に再挑戦してきました。

Banska Bystrica はウイーンからバスで 4 時間半。周囲は 1000m 程の山に囲まれた、標高 400m に位置する古い街です。今回はこの町の周囲の山が MTB-O の世界選手権の舞台となりました。

険しいミドル予選

事前に公開されていた旧マップから、登りの厳しいテラインだと予想されていましたが、実際その通りでした。ミドルは宿舎となった大学のグランドがゴールで目の前の山がテラインでした。ミドルにしては細かいところやショートレッグの難しいところがほとんどなく、ロングレッグとルートチョイスの課題が中心で、コースだけ見るとロングのようなコースでした。ただ登りが厳しい分ミスをすると大きなロスタイムとなるため、上位陣にもいろいろ波乱がありました。

ロング予選それがスロバキア

ロングの予選は 1:15,000 の地図で等高線間隔 10m。山の上のスキー場が会場、スタート＆ゴールでした。ロング予選はシンプルなロングレッグ中心のコースなのでバイクの能力がそのまま出てしまって日本チームには厳しい結果となりました。正直な感想としては、“ここでできるんだったら、どこでも MTB-O の大会は開ける”と思いました。

レース後に大会責任者の Michael Kundarata が“どうだった？”と聞かれたので“登りが多くて急で大変だった“と答えると、笑顔で”それがスロバキアさ。“と言われてしまいました。でもスロバキアにももっと平らなところもたくさんあるんだけどなあ。

開会式は、中世の町並みそのままの街の
中央の広場で盛大に行われた。

リレー

Banska Bystrica の北にあるスキーリゾート Donovally が会場。ここは MTB のレースなんかも開かれているようです。スキー場で夏に MTB の大会があるのは日本と同じようです。オリエンテーリングをするにはちょっとつらいものはありますが。

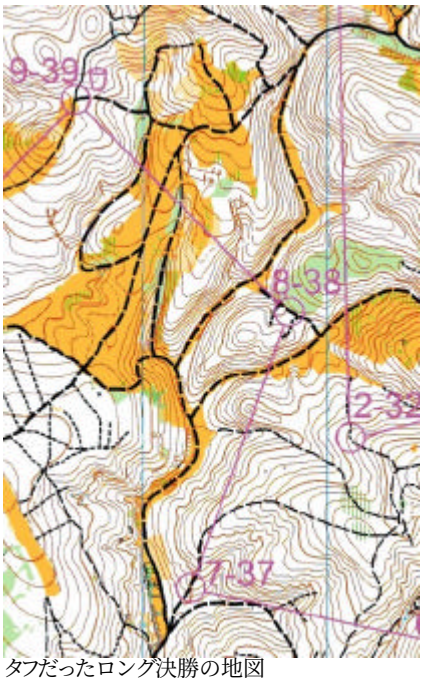
ミドル、ロングと比べると比較的なだらかでスピーディーなコースでした。ただコースそのものは簡単であまり難

しいところはありませんでした。日本チームもそれなりに健闘したのですが、各国 2 チームの内上位 1 チームだけに順位が着くため、結果的に完走 24 チーム中 24 位でした。

開会式で選手団をエスコートしてくれる子供

ロング決勝

ロング決勝はトップがやっと 2 時間を切るぐらいのかなりのハードなコース。B ファイナルも同じコースだったので、2 時間 30 分でもけっこう上位、というタフなレースでした。ただテライン、コースは一番ナヴィゲーションの要素が多く登りもほどほどで、今大会で一番楽しいコースでした。



タフだったロング決勝の地図

中堅国がレベルアップ

今回の日本チームは結果だけ見ると去年以上に厳しいものでした。テライン、コースによるところも多少はありますが、前回大会では競っていたスペインやエストニアなどにすっかり置いて行かれてしまいました。今までの強豪国フィンランド、フランス、ロシアなんかは相変わらずですが、ポルトガルやエストニア、ポーランドなんかでも年間 10 以上の MTB-O 大会が開かれるようになって、中堅国のレベルが上がってきています。ヨーロッパのように周囲の国の大会でトレーニングというわけにはいかない日本でも、もう少し練習の機会を増やさないとどんどん離されてしまいますね。

スタートする新選手。真剣です。

MTB-O のナヴィゲーション

MTB-O では基本的にはトラック（道、小径など地図に書かれているもの）の上を走ります。しかしこれがけっこうくせ者で、ランニング以上に登り下り、路面の状態によるスピードの変化が大きいため、細い道の分岐を曲がるだけでもそれなりにナヴィゲーションが必要です。さらにミスをしたときのリカバリーが Foot-O 以上に難しいので、うまくいっているときは簡単に思えるのですが実際には高いナヴィゲーション能力が要求されます。来年の世界選手権はフィンランドです。フラットなテラインなのでまずはナヴィゲーションがものを言います。いまこれを読んでいる方はぜひ 1 度 MTB-O にトライしてみてください。そして一緒にフィンランドへ行きませんか。

世界最速のオリエンテーリングを一緒に体験しましょう。

（樋口一志）

Relay MEN 18.8km 540m 12k

1	FIN1	179.14	
24	JPN1	260.13	
	Kazushi Higuchi		82.06
	Tatsuhiko Adachi		96.11
	Takanori Arata		81.56
	JPN2	263.12	
	Masaru Miyabayashi		80.52
	Toshihito Shibata		97.28
	Takashi Miyahara		84.52

リレーでほぼ同時にゴールする JPN1&JPN2 チームの足立選手（前）と芝田選手。
会場はごらんの通りのスキー場＋牧草地。